



ペリリュー島の戦死者へ思いを
寄せた慰霊祭 県護国神社

ペリリュー島戦没者 遺族ら120人が慰霊祭

水戸の県護国神社

太平洋戦争中にパラオ共和国のペリリュー島で命を落とした水戸歩兵第二連隊とペリリュー島守備部隊の戦没者合同慰霊祭が23日、水戸市見川1丁目の県護国神社で開かれ、全国から駆け付けた遺族や戦友、崇敬者ら約120人が戦死者へ思いを寄せた。

ペリリュー島は1944年9月から11月、日米両軍が壮絶な戦いを繰り広げ、日本軍の守備隊約1万1000人はほぼ全滅した。同慰霊祭は日本軍が同月下旬に玉砕したことから、毎年この日に開いている。

戦後70年に当たる昨年4月には、天皇皇后両陛下が同島を慰霊参拝された。

この日の全体集会では、戦没者の遺骨収集の推進に関する法律が今年4月に施行され、現地で情報収集活動や測量活動が行われている様子が報告された。水戸二連隊ペリリュー島慰霊会の田崎喜信会長は、遺骨の早期帰還を願いながら、英霊への感謝を示した。